

地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲

2014.8.

No.3

県立尼崎総合医療センター(仮称)

だより

[各部紹介]

小児科／小児外科 ER総合診療科

新病院に向けてリレーメッセージ
看護部長から

コラム

誤解しやすい病院の言葉



自然に包まれる、
阪神間の憩いの場 甲山



 兵庫県立尼崎病院

 兵庫県立塚口病院



小児科

「子どもが第一」の小児科

新病院は、周産期医療・小児救急医療の中核病院として、また将来の小児医療を担う若い医師を育てる病院としての役割を担っています。地域の病院・診療所と協力して、子どもの健康と安全を守る体制を築いていきます。小児の診療では、生命倫理や児童虐待などのさまざまな問題において、難しい決断が必要なこともあります。そういう場合には、「子どもの最善の利益を第一に(Child First)」考えることを原則にしています。



県立塚口病院
検査放射線部長兼小児科部長

毎原 敏郎

日本小児科学会 専門医
日本小児神経学会 小児神経専門医
京都大学附属病院小児科 臨床教授
日本小児科学会 代議員



小児科の紹介

小児の診療においては、医師だけでなく、看護部、検査部、放射線部、リハビリ科、薬剤部、栄養課などと連携して、チーム医療を提供しています。

また「疾患」だけでなく、成長・発達という視点や心理的な面、家庭・学校など子どもが育つ環境への配慮も不可欠です。そのような観点から「こども家族支援室」を設立し、医学的・心理的・社会的な問題に対するさまざまな支援を提供しています。

対象とする症状や疾患

現在の県立塚口病院の小児科と県立尼崎病院の小児循環器内科が合併して、小児救急科、小児外科とともに充実した小児医療センターができることとなります。

小児科としては、新生児、血液・腫瘍、循環器、神経、アレルギーを中心として、膠原病・リウマチ、小児生活習慣病、心身症、児童精神、発達障害、内分泌・代謝、腎泌尿器、臨床遺伝など、子どもに関わる幅広い分野を充実させていきます。



二列目左から：内藤医師、堀田医師、松永医師
一列目左から：平海医師、西田医師、飯尾医師



二列目左から：加藤医師、脇田医師、末廣医師、西谷医師、吉田医師
中橋医師、高橋医師
一列目左から：窪田医師、松本医師、毎原医師、宇佐美医師
川崎医師、石原医師

小児外科

高度な医療と傷が目立たない手術を目指す小児外科

簡単にいうと、内科に対して小児科があるのと同じで、外科に対して小児外科があります。ここでいう外科には、消化器外科、呼吸器外科、肛門科などが含まれますが、小児の頸部疾患、泌尿器科疾患、婦人科疾患、形成外科疾患なども治療の対象です。

新病院では重症な患児を管理するPICU8床が設置され、高度な手術の術前術後管理が可能となります。また、日帰り手術用の回復室が設置され、完全な日帰り手術を施行する予定です。



県立塚口病院 小児外科科長
片山 哲夫

日本外科学会指導医
日本小児外科学会専門医
日本消化器外科学会認定医
日本救急医学会認定ICLS
コースディレクター

対象とする疾患

小児外科領域疾患には、鼠径ヘルニア、虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、胆道拡張症、ヒルシュスプルング病などの腹部・消化器疾患、食道閉鎖症、小腸閉鎖症、鎖肛などの新生児疾患、小児固形腫瘍、外傷が含まれますが、泌尿器科領域(停留精巣、陰嚢水腫、水腎症など)、婦人科領域(卵巣腫瘍、陰唇癒合など)、耳鼻科領域(正中頸嚢胞、側頸嚢胞、咽頭梨状窩瘻など)の小児疾患も治療の対象です。

小児外科での治療・検査

鏡視下手術

鼠径ヘルニア、陰嚢水腫や虫垂炎に対しては、鏡視下手術で傷が目立たない手術を行っています。特に、虫垂炎には創部が臍部一カ所のための手術を導入しています。

検査

ヒルシュスプルング病や胃食道逆流症に対し、内圧検査(直腸・食道)、胃食道24時間pHモニター検査、直腸粘膜生検検査を施行できます。細径気管支ファイバー・小児用硬性気管支鏡も整備され、気道系に対して幅広い診断・処置が可能で、小児用膀胱鏡による膀胱・尿道の検査も可能です。



左から：渡邊医師、片山医師、高田医師

ER総合
診療科

どこを受診すればよいのか 迷ったらER総合診療科へ

4年前から救急初療も担当するようになり、総合内科からER総合診療科と名称が変更されました。当院には多数の専門科がありますが、それらを縦糸とすると、私たちは各科を横断するような横糸の役割をするような科を目指しています。どこを受診すればよいのか迷われた場合は当科を受診してください。全人的に患者様を診察し、必要に応じて各専門科へ紹介いたします。

ER総合診療科の紹介

総合診療と救命救急センターの 二部門をから成ります。

- ①感染症や成人病疾患を中心とした総合診療と、認定看護師とともに緩和ケアも担当します。また常識ある社会人として研修医を教育する部署でもあると思っています。
- ②救命救急センターでは、救急科医師とともに専従グループを形成し、急患室での初療を担当します。入院が必要な場合は専門家に振り分けしにくい患者を当科で受け持ちます。

対象とする疾患

最近増加傾向にある海外渡航感染症を含めた感染症一般と、高血圧や高脂血症など成人病疾患が対象です。初診の窓口として、意識障害、不明熱、リンパ節腫脹、体重減少、電解質異常、原発不明癌、検診での異常指摘などは明らかな専門性がなく当科で診察し、必要に応じて専門科へ紹介します。



県立尼崎病院
ER総合診療科

吉永 孝之

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医
ICD(infection control doctor)認定医

二列目左から：山本医師、山縣医師、田中医師、野田医師
一列目左から：大前医師、豊岡医師、吉永医師、田川医師、堀谷医師



新病院に向けて

看護部長から



リレーメッセージ

ここに看護のドラマがある！～未来を築く21世紀的看護を目指して～



平成27年の開院まで1年弱となり、いよいよカウントダウンが始まりました。尼崎病院・塚口病院療看護部では、3年前より合同会議を持ちながら、新病院の看護の軸となる内容を検討しています。“尼崎病院、塚口病院という病院はもうないのだ。2つで1つの病院なのだ”という院長の考え方の基に、着実に“こころ”が1つになってきています。両病院の伝統を尊重しながら、新たな文化を形成するプロセスは、笑いあり、激論あり、涙(?)あり、“生まれる”ための貴重な体験になっています。

新病院では、21世紀的看護体制と看護教育のモデル病院を目指しています。人口動態の変化に伴い、医療提供体制が大きく変化する中で、21世紀的看護体制のキーワードは“チーム医療”です。医療者と患者さんがチームを組んで、専門性を活かし協働することで、患者さんの望む目標にいち早く進む

ことができます。医療チームでの看護師の役割は、患者さんに寄り添いながら、最も身近な医療人として、適切なアドバイスし、チームコーディネートをしていくことだと考えています。それを実現するために、“ぐんぐん伸びるたけのご型キャリアパス”をツールに、自由な発想と探求心を持ち、チームマネジメントができる看護師の教育に力を入れて行きたいと思っています。

新病院は、11階まで鉄骨が生まれ、外観から夢と希望が伝わってきます。夢と希望の光を看護のこころに込めて、看護のドラマを創って行きたいと思っています。

県立尼崎病院 副院長 兼 看護部長 平山ミツヨ
県立塚口病院 副院長 兼 看護部長 箕浦 洋子



看護師 マスコットキャラクター
あまいるちゃん

次号予告

次号は、「県立尼崎病院 佐藤慎一 副院長 (救命救急センター準備担当)」からのメッセージです。

セミナーのご案内

市民健康公開講座 市民すこやかセミナー 第48回すこやかセミナー

多くの方
ご参加を!

【テーマ】「がん患者さんを支えるために」

1)「がんと診断されたらどうしますか?」

講師: 県立尼崎病院 ER総合診療科 医師 大前隆仁

2)「一人で抱え込まないで…」

講師: 県立尼崎病院 がん相談支援センター がん相談看護師 森嶋とみ子

【日時】平成26年9月2日(火曜日) 午後2時～3時30分

【場所】フェスタ立花 すこやかプラザ(JR立花駅南側すぐ) 参加費: 無料(予約不要)

★お問い合わせは、地域医療連携センター(☎ 06-6401-5115)へ



兵庫県立尼崎総合医療センター(仮称)
Facebook ページを開設しています。

兵庫県立尼崎総合医療センター フェイスブック

検索



Find us on
Facebook



してね!



尼崎病院で **ロボット手術** が始まりました！

手術の現場に大きな変革



尼崎病院では、この6月から前立腺悪性腫瘍に対して、**最新型の手術支援ロボット「ダビンチSi」**による手術を開始しています。

「ダビンチ」によるロボット手術は、腹腔鏡下手術と同じく、開腹をせずに患者さんの身体に小さな穴を開けて行う手術ですが、腹腔鏡下手術との大きな違いは、執刀医師は手術台と離れたコンソールに座り、患部の3次元の立体画像を覗き込みながら手元ハンドルを操作することで、自分の手のように手術器具を取り付けた3本のアームを遠隔操作で動かすという画期的な手術方法です。

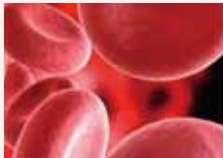
ロボット手術は、手術の安全性向上はもちろんのこと、深部でも細かな手術が可能で術中の傷口が小さく出血量が少ないことなどの利点があり、身体への手術負担を軽減する手術として注目されています。現在は、保険適応が可能な前立腺悪性腫瘍に対してのみ行われていますが、今後、他の疾患への応用利用が期待されます。

医療用ロボット？



誤解しやすい病院の言葉

シリーズ
No.2



医療者が病院で使用する病状や病名などの医学用語には、一般の皆さんが日常生活で用いる言葉と意味合いが大きく異なるものがあります。

【貧血】 日常語の「貧血」は、「気持ちが悪くなって立ちくらみやめまいを起こして倒れること」という意味で使われることがありますね。しかし、それら多くは、いわゆる「脳貧血」で、(起立性)低血圧や自律神経の働きの低下によるめまい・立ちくらみです。

医学用語としての「貧血」は、血液の中の赤血球やその中のヘモグロビン(鉄分)と言う色素が減った状態を言い、貧血が進行すると、全身に酸素を運ぶことができなくなり、疲れやすい、息切れ・動悸、めまいなどの症状がおこります。赤血球が減る「貧血」の原因には、出血、骨での産生能低下など様々で、重篤な疾患が隠れていることがあります。血液検査をすれば貧血の有無は直ぐ分かり、適切な検査とその原因に適した治療が求められます。

編集後記

夏といえば花火。夜空にあの大輪の花を目にすると、晴れやかな気分になさしてくれますが、目にしなくともどこか遠くで聞こえる花火の音でさえ、爽やかな気分になさしてくれます。このような楽しみを見つけて、まだまだ続く暑さを乗りきりたいと考えているところです。この時期、暑さで体調を崩しやすいですが、皆様も体調管理に十分気を付けてお過ごしください。

(塚口病院 n.k)



兵庫県立尼崎病院

〒660-0828 兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL 06-6482-1521(代表) FAX 06-6482-7430
<http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎病院

検索



兵庫県立塚口病院

〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町6丁目8番17号
TEL 06-6429-5321(代表) FAX 06-6422-7405
<http://www.tsukaguchi-hospital.net/index.html>

兵庫県立塚口病院

検索

全国で注目されました！ その1

全国にて報道されました！

重篤な3つの先天性心臓病を併発した女児、尼崎病院にて手術に成功

心臓弁の一つが閉じている「三尖弁閉鎖」に、肺動脈へつながる出口の弁がない「肺動脈弁欠損」と、左右の心室の壁に穴が開く「心室中隔欠損」が合併した1歳女児が、尼崎病院にて計3回の手術を受け、先日無事退院されました。

今回の手術成功は、「塚口病院にて、小児科医が妊娠中の胎児段階（妊娠30週）での早期診断をしたのち、尼崎病院心臓外科や小児循環器内科など関係医と周到に連携をとり、胎児期より出生後の手術計画を緻密にたてた結果」と言えます。



国内初



全国で注目されました！その2

全国自治体 病院協議会から 表彰されました！

平成26年度
全国自治体病院協議会定時総会
自治体立優良病院表彰式



**尼崎病院が、優良病院として
全国で選ばれました！**



全国自治体病院協議会は、毎年、「長期継続して、病院経営が安定していること」および「救急医療や高度医療の提供など、地域医療連携に深く貢献していること」などの厳しい選考基準に基づき、優良病院としてふさわしい病院に対して、自治体立優良病院表彰を行っています。

尼崎病院が、全国の自治体病院の中から平成26年度の自治体立優良病院として選ばれ表彰されました。

院長のコメント

このたび、優良病院として選考していただき、全国自治体病院協議会には感謝いたします。病院職員一同の診療に対する熱意と県尼ファンの患者さまの支援あつてのことです。

これからも心をつちにして、患者さまの身になって、改善すべき点を改善し、安全で安心できる医療に向けて努力してまいりますので、医療関係者や県尼ファンの患者さまにはこれからもよろしく、お願いいたします。



表彰式での記念撮影にて、盾を手にする藤原久義病院長（前列右から二人目）